

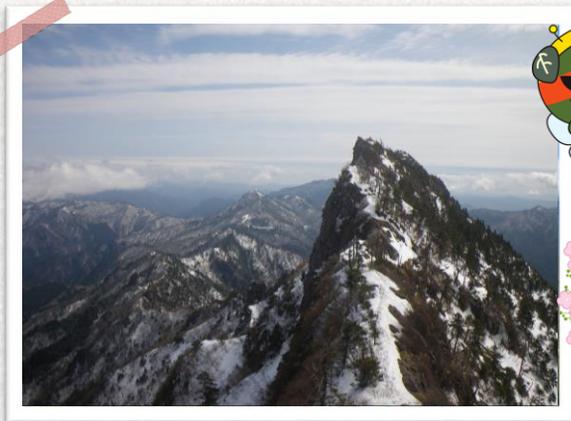
# 地域連携室便り

愛媛県立中央病院  
地域医療連携室

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)  
089-947-1165 (後方連携)

FAX 089-987-6271

No. 10 (2021年3月)



～春雪の石鎚山～ 写真提供：三木均 室長



春らしい陽ざしを感じるこの頃、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。今回地域連携室便り No. 10 3月 を刊行致しました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見を頂ければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。

この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

## 今回の内容

- ① 皆様大変お世話になりました . . . . . 地域医療連携室 塩出美奈子
- ② 新規導入医療機器紹介 ～手術支援システムの更新～ . . . 脳神経外科 大上史朗
- ③ 総合診療科の活動について . . . . . 総合診療科 杉山圭三
- ④ 第102回 医療連携懇話会を終えて . . . . . 消化器外科 大谷広美
- ⑤ 漢方コラム 暮らしの中の東洋医学 –その3– . . . . . 漢方内科 山岡傳一郎
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

## ① 皆さま大変お世話になりました 地域医療連携室 看護長 塩出 美奈子

この度3月で定年を迎えることになりました。在職中はたくさんの方々にご大変お世話になりました。地域医療連携室担当となりもう6年が経過しました。最初は何も分からず戸惑う事ばかりでしたが、地域の皆様に支えて頂きながら、たくさんの事を学ばせて頂きました。

地域医療連携室において、一番実感したことは『顔の見える連携の大切さ』でした。直接訪問させて頂いて、顔を合わせていろいろお話させて頂くことで、自分の考えや思いを知っていただき、また逆に連携における問題点などご指摘を頂いて改善策に繋げることが出来ました。そして徐々に関係性ができ、転院・退院調整においても安心して患者さんを地域へ繋ぐ事ができたと思います。

昨年度からコロナ感染の猛威により、訪問も出来ず顔の見える連携が出来ない状況下でしたが、それまでの関係性を保って頂いてスムーズな連携を図って頂いていることに深く感謝申し上げます。

これからもまだまだコロナ感染の終息が見えない中、これまで同様にお力添えを頂きご協力の程、よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

今後の皆さまのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



## <新規導入医療機器紹介>

### ②手術支援システムの更新

脳卒中センター長 大上 史朗

脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科等が行う頭蓋内領域、鼻・耳領域および脊椎・脊髄領域の手術においては、その手術技術やさまざまな手術機器はもちろんのこと、手術ナビゲーションシステムや神経モニタリングシステムなどの手術支援機器が必要不可欠です。従来、当院では、ナビゲーションシステムや神経モニタリングを行う誘発電位装置を導入し、多くの手術に用いてきましたが、使用手術数の増加や機器の経年劣化に伴い、令和元年度にナビゲーションシステムの、令和2年度に誘発電位装置の更新を行いました。

手術ナビゲーションシステムとは、術中に手術用インストゥルメントの位置を術前画像上に表示する機器であり、安全かつ正確に手術を行うために用いる手術支援機器です。当院では、従来、StealthStation S7 (Medtronic社)を購入し、主に、脳神経外科や耳鼻咽喉科・頭頸部外科で使用してきました。しかし、両診療科でのナビゲーションシステムの使用頻度が増加し、手術時間が重なり、使用できない手術症例も増加してきたため、令和元年度に新たにStealthStation S8 (Medtronic社)を導入しました。

今回導入したStealthStation S8では、光学式だけでなく、磁場式のトラッキング方式にも対応しているナビゲーションシステムです。さらに、今回は、脳神経外科や耳鼻咽喉科 (Stealth Station™ ENT) のソフトウェアばかりでなく、脊椎外科手術用のソフトウェアも導入し、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科ばかりでなく、脳神経外科と整形外科の両診療科で行っている脊椎手術への使用も可能となりました。さらに、ナビゲーションシステムの最大の問題点であるブレイン・シフト (術中、手術操作等のため脳が移動

する事により生じる誤差) に対応するために、超音波画像をナビゲーションにリンクできるSonoNavソフトウェアも導入し、超音波画像と同一断面の術前画像を同時に表示できるようになりました。この新しいナビゲーションを、現在、脳神経外科では脳腫瘍の摘出術や生検術に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科では複雑な副鼻腔手術や中耳・錐体骨手術に、整形外科では脊椎手術などに使用しています。



StealthStation S8

一方、神経モニタリングを行う誘発電位装置は、脳・脳神経や脊髄の神経機能を術中に評価できる機器です。従来、エンデバーCR (Natus Neurology社)を使用してきましたが、保守点検可能な年限が経過したため、新たにプロテクター32 (Natus Neurology社)を令和2年に導入しました。本機器では、32チャンネルの入力チャンネルを有し、機器内部ノイズが小さく、ノイズが多い手術室内環境下でも左右されないデータ収集が可能となりました。この誘発電位装置を用いて、脳腫瘍の手術では、運動機能評価のための脳刺激（運動野直接刺激や白質刺激）による運動誘発電位、感覚機能評価のための体性感覚誘発電位、聴力機能評価のための脳幹誘発電位・蝸牛神経誘発電位などの誘発電位モニタリングに加えて、顔面・舌咽・迷走・舌下神経などを直接刺激する脳神経モニタリングも行っています。また、脳動脈瘤や頸部頸動脈狭窄などの脳血管障害の手術においても、経頭蓋刺激による運動誘発電位、体性感覚誘発電位や脳波モニタリングなどを積極的に用いています。さらに、脊髄腫瘍などの脊椎・脊髄手術においても、経頭蓋刺激による運動誘発電位や脊髄神経のモニタリングを使用しています。

今後は、今回導入した手術支援機器を駆使して、安全で正確な手術を数多く行い、様々な疾患に対してよりよい結果がでるように努めていきたいと考えています。



プロテクター32

### ③ 総合診療科の活動について

総合診療科 部長 杉山 圭三

愛媛県立中央病院の総合診療科も、既に設立から20年が経過いたしました。この間、大勢の先生方のご協力をいただきながら診療してまいりましたが、時とともに変化したものもあれば、変わらず継続しているものもあります。令和の時代になっての、我々総合診療科の活動内容につきまして、ご紹介させていただきます。

一つ目は、まず日々の診療についてです。現在は、総合診療科と漢方内科との医師が協同して日々の診療を行っております。特別初診料や新型コロナウイルス感染症流行の影響で、飛び込み初診患者は減っており、院外の先生方からのご紹介につきましても、おそらく3割ほど減っている印象です。我々は、単に振り分け外来を行うのではなく、ほぼ内科系の診療ではありますが、特別に専門医の診療を要しなかったり、当院には当該診療科が無かったりする分野、あるいは一般内科的な患者に対しての外来および入院診療を行っております。具体的には、原因不明の発熱や疼痛の患者、健診異常や検診精査、複合的な疾病の患者、当該専門診療科がはっきりしない患者、内科二次救急的な患者などが、主な診療対象となっております。また、禁煙外来につきましても、当科にて診療しております。

二つ目は、臨床での教育です。近年増えております学生実習の受け入れはもちろんですが、当院の初期臨床研修医は原則全員が当科の研修を実施いたします。また、内科専攻医につきましても、当科にて外来診療を行っております。初期臨床研修においては、外来診療の経験が必須とされており、当科外来にて初診患者の診療や、その後の再診フォローなどの診療を、指導医の下で行っております。毎日のカンファレンスにおいては、その日の初診患者等の振り返りを行い、複数の指導医からのフィードバックを行います。院外からの紹介患者につきましても、適宜研修医にファーストタッチさせて、指導医の責任で診療させていただきます。検査結果の説明、生活指導、処方箋や受診報告書の作成など、研修医にとっては外来でしか学べないものも多く、臨床教育は当科において非常に重要な役割となっております。

三つ目は、へき地医療支援についてです。当院は愛媛県へき地医療支援センターの役割を担っており、国保診療所等への代診医師派遣や、その調整などを行っております。新宮、河辺、瀬戸、松野などからの代診依頼に対して、地域の中核病院とも協力しながら、代診医師派遣を行います。今年度も、年間延べ100日以上の方診を行っております。あいにくと地域中核病院や民間のクリニックに対しては、代診医師派遣が出来ない制度となっており、また市医師会の夜間休日当番診療への協力も出来ておりませんが、ご容赦ください。

その他として、病院内での発熱外来診療や、職員に対する健康相談のような役割も担っております。専門診療科が各分野の専門診療に専念出来るためにも、我々総合診療科の存在は意味があると考えます。

地域の先生方にとりましては、特に一つ目の役割がお役に立てているものと考えますが、地域医療の担い手とか、かかりつけ医の後継者育成とかの視点に立てば、二つ目の役割でもお役に立てるのではないかと思います。新専門医制度においては、19番目の専門領域として、「総合診療専門医」が規定されました。我々は総合診療専門医育成のための、後期研修プログラムも運用しております。医局制度にとらわれず、家庭医もしくは病院総合医と言われるような立ち位置をお考えの際は、何かしらお役に立てると思います。ご自身のセカンドライフとしての地域医療貢献や、ご子弟の研鑽の場としてのニーズがございましたら、ご相談いただくと幸いです。



## ④第102回 医療連携懇話会を終えて

消化器外科 主任部長 大谷 広美

2021年2月10日、第102回 医療連携懇話会を開催いたしました。『重症COVID-19の診療』と題して、診療体制の対応につき医師と看護師それぞれの立場から、実際にどんな問題点があったのかのように対応したのかを示していただきました。その後救命救急センター長よりセンターの歴史についてプレゼンテーションしていただきました。

最初に、中城晴喜 救急科専攻医より、「新型コロナを疑う重症患者の受け入れ・診療体制」（医師の対応）と題し、医師側からみた問題点を提示していただきました。現在までに、救急科として救命ICUにCOVID-19による重症呼吸不全疑い患者さんを4症例受け入れており、具体的にどのような対応が必要であったのかが示されました。PCR検査判明までICUの入室制限やベッドコントロールが必要であり、他部署や他科と情報共有ができておらず、動線や搬送経路について整理ができていなかった事が問題点として挙げられました。

COVID-19被疑症例を診療しながら平時の救急医療を担保するには限界があるため、院内調整だけでなく、地域の中で役割を分担し診療を行う事の重要性が示されました。

2題目は「新型コロナを疑う重症患者の受け入れ・診療体制」（看護師の対応）と題し、鵜久森優貴 看護師に講演いただきました。前述の症例を含め、COVID-19陽性および疑い症例として救命ICUに7症例受け入れた経験を踏まえ、大前提として入院スタッフの安全確保を行ったうえで、実現可能な対策を長く継続する事、マニュアルは常にアップデートしていくべき事、見える化（チェックリストの活用）、動画やシミュレーションを活用した効果的なスタッフ教育、多職種での連携の必要性について示されました。

3題目は、「救命救急センター 昔と今」と題し、濱見原 救命救急センター長に講演いただきました。1981年の救命救急センター設立の経緯に始まり、2003年の救急診療部設立、2009年の消防防災ヘリコプターの運用、2010年のドクターカーの導入等、当時の写真を交えながら診療体制の変遷についての提示がありました。新病院移転に際し、2013年、現在の救命救急センター救急科としての体制が整い、救命センターに搬送されるすべての患者に救急科医師が携わり、その後の診療をコーディネートする診療形態となり、オープンICU・HCUとして、主治医が必要と判断した場合にICU専任救急科医師に相談できる体制になっている事が説明されました。また、2017年より導入されたドクターヘリが有用に活用され、救命救急に大きな役割を果たしている事が示されました。

発表後、当時の救命救急センターを知る先生方より当時の思い出なども語られました。

会全体として、今回、人々の日常を一変させたCOVID-19のような事態に対しても柔軟に対応し、引き続き救命救急センターが、県民が安心を得られるよう、安全で良質な救急医療を提供し続けている事が確認されました。

臨床のトピックや診療に役立つ情報などお届けします！

## ⑤「暮らしの中の東洋医学 - その3 -」

漢方内科 主任部長 山岡 傳一郎



### ～ビジネスは変化の時にあり～

「ビジネスは変化の時にある」とは経済界では有名な言葉です。東洋医学では、変化の時には、抑肝散（よくかんさん）の患者さんが増えるだろうと予想されます。この処方はもともと疳の虫（小児神経症）の処方でしたが、現代では、老人性夜間せん妄への安全な第一処方です。情動（恐、喜、悲、怒、憂など）は、この変化に際して湧き出るものです。赤ちゃんから子供への成長変化、大人から老人へ加齢変化、昼から夜への心の変化の中でおきやすい、不安症状にはすべてこの抑肝散が適応する可能性があります。「ポスト・コロナ時代には、（抑肝散の働く）ビジネスがあり」とは、耳慣れない言葉ですが、どこか頭の片隅にお残しいただけると幸甚です。

## ⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室だよりなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

ご意見



ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : [c-renkei@eph.pref.ehime.jp](mailto:c-renkei@eph.pref.ehime.jp)

ご自由にお書き下さい！

メールをご登録すると…

医療連携懇話会の  
動画配信が  
ご覧いただけます！



動画配信  
3つの  
ポイント！



①  
好きな  
時間に



②  
繰り返し  
再生！



③  
3密  
回避



お問い合わせ : 愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>塩出・渡部



TEL : 089-987-6270 FAX : 089-987-6271 E-mail : [c-renkei@eph.pref.ehime.jp](mailto:c-renkei@eph.pref.ehime.jp)



ルノワール シカゴ美術館 写真提供：三木均 室長

次回4月号(No.11)は  
4月中旬頃刊行の  
予定です

お楽しみに！！

